

日 時：平成25年3月4日（月）
午後1時30分～3時
（終了予定）
場 所：水戸商工会議所 第1会議室

水戸市中心市街地活性化協議会運営委員会

次 第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

（1）平成25年度事業実施に向けた協議会としての基本的な考え方について

（2）各部会の事業対応について

（3）その他

4. 閉 会

2012. 11. 7

水戸市中心市街地活性化協議会
「水戸のまちなかにおけるメリット等の再整理」について

8月28日に開催した調整会議において、水戸市中心市街地活性化協議会の今後の運営について協議を行い、改めて「水戸のまちなかのメリット・デメリット・困るもの」等について各部会で議論を行った後、再度、調整会議を開いて、そこからコンセプト・戦略を導き出すことになりました。

そして、そのコンセプトを水戸市、商業者・市民らが共有する必要があるという結論にいたりました。

【回答者】

三上副会長

齋藤運営委員長

松本運営副委員長

街なか居住・市街地整備部会（9/21 開催）

商業・賑わいづくり部会（9/27 開催）

交通・福利向上部会（9/26 開催）

学生サポーターC's

■水戸のまちなかのメリット（〇〇がある）

居住環境

- ・ 県下では最も都市集積が進んでおり（残っており）、多様なライフスタイルが実現可能。
- ・ 人口が集積しており、宅配サービスや福祉サービスを受けやすい。
- ・ 台地の上は地盤が強固。
- ・ 照明がほぼ整備されていて、安全な生活が可能。
- ・ 千波湖、偕楽園など、大規模な公園・緑地が多く自然が豊かである。
- ・ 水戸駅から中心市街地にかけて、千波湖、公園、デパートがコンパクトにまとまっている。
- ・ 市街地の街並みの雰囲気を感じながら歩いて買い物や食事ができる。
- ・ 高校を始め、学校が多い。もっと学生が楽しめる（寄り道したくなる）場所になるとよい。
- ・ マンションの増加などで定住人口が若干増加している。
- ・ 防災・安全なまちづくりが進んでいる。
- ・ 水・エネルギー・食料の備えがある。
- ・ これまでの投資蓄積の有効活用が可能。
- ・ 医療・福祉の充実で、安心して住める。
- ・ 周辺の偕楽園や千波湖とつながることによって形成される魅力がある。

商業

- ・ 減ったとはいえ、商業施設が充実しており、買い物等に便利である。
- ・ 大型の商業施設がある。
- ・ 商店街など小売店・飲食店が集積している。
- ・ 個性的で魅力的な店舗がある。
- ・ 買回り品を取り扱う店舗や専門性が高い店舗が多い。
- ・ 商店等のまちなか立地の信用形成。
- ・ 老舗が多い。

賑わいづくり事業

- ・ 梅まつり、黄門まつりなどの地域イベントが多い。
- ・ 表通りと裏通り・横町の回遊性を高める。
- ・ イベントの企画が多い。
- ・ まちなかを盛り上げたい、より魅力的な空間に変えていきたいと考える「人」の存在。
- ・ 多様なイベントの展開と飲食の楽しさ。

交通

- ・ 歩道の幅が広く、歩きやすい。

- ・バス路線が集約されていて、どこからでも来やすい。本数も多い。
- ・JRの駅があり乗降客が多い。
- ・路線バスの運行本数が多い。
- ・歩車道分離、徒歩や自転車、公共交通を利用したライフスタイルが可能。
- ・公共交通優先のまちづくり 街なかへ入る車の制限とパークアンドライドの検討。
- ・公共交通が充実しており、クルマが無くても生活できる（これは子供から高齢者、飲酒をする世代など、すべての層にメリット。地球環境にも良い）。

都市福利施設

- ・文化施設が多い。教育施設も充実している（学習塾を含め）。
- ・官公庁が近くにあるので、手続きに便利。
- ・銀行・郵便局等の金融機関が多いので利用に便利。
- ・偕楽園や弘道館など歴史的施設や観光施設、図書館や学校など教育施設、芸術館や博物館などの文化施設等をはじめとする都市機能が集積している。
- ・三の丸庁舎ができて便利になった。
（都市機能がコンパクトなエリアに集積）→（居住者にとっても来訪者にとっても、便利かつ歩いて楽しい）
- ・水戸芸術館があることによって可能な芸術文化の体験とそれが醸し出すまちの雰囲気。
- ・歴史のある施設が多い。
- ・歴史的資源に恵まれている。

その他

- ・衰退傾向とはいえ、ステイタス性（歴史の持つ重み）も残っている。
- ・観光名所が比較的街なかから近いので、観光に便利。
- ・オフィスおよび行政の出先機関、学校が立地しており就業人口・昼間人口が多い。
- ・街なかの歴史・文化色アピール。
- ・街なかに刻まれた歴史と文化。例えば食の面で、あるいは景観の面で。
- ・街なか居住者も来訪者も、歴史散策、芸術・文化散策、裏街巡りを楽しむ。
- ・街なかに歴史教室常設。
- ・歴史教育に豊富な教材。
- ・農村・漁村との連携による広域都市圏での地産地消。
- ・文化、歴史、人口、行政、情報、交通の中心「だった」。
- ・広域水戸都市圏の多くの人にとって、いまだに「中心」は水戸のまちなか。
- ・今でも水戸のまちなかは、ステータスが高い（ハレの日の舞台）。
- ・固定資産税が高い。（税収が上がる）。

■水戸のまちなかのデメリット（××がない）

居住環境

- ・生活必需品が揃う店がない。生鮮品店が少ない。
- ・人気店・繁盛店が少ない。
- ・住民が求める商品・サービスと、商店街が扱う商品・サービスのミスマッチ。
食料品店・家電量販店（駅南にはあるものの、商品を買って银杏坂をのぼるのは大変）。
- ・駅周辺は良いとして、年配の人が買物一つでも困っているのが現状。
- ・小中学校生が学校から帰ってきてから、集まれる場所（コミュニティ）がない。
- ・犯罪が多い一方で、防犯カメラなどが設置されていない。
- ・歩いている人が少ない。公園が少なく休む場所がない。
- ・夜間（特に午後8時以降）が暗い。土日は寂しい。車時代ではあるが、散歩したい人もいる。夜はもっと光をつけて、人が集まりやすい雰囲気を作り出した方が良いと思う。
- ・過度に人口集積するとゴミ問題や騒音の問題などが発生しやすい。
- ・緑地やオープンスペースが少ない（大地を下りれば十分にあるが）。
- ・商業・行政・医療サービスなどは、かつてほど充実していない（呼び戻す必要がある）。
- ・地価が下がったとはいえ、戸建てには、なかなか住めない（住環境に特化して考えると、多少郊外の方が良いという考え方もよくわかる）。
- ・人が多く災害時に混乱が起きやすい（一方で情報が得やすいメリット、優先して復旧されるメリットもある）。
- ・ないと思うが、戦争時などには、標的になりやすい。実際になったことがある。
- ・駐車場が多くなり、緑が意外と少ない。

市街地整備

- ・まちなみ（スカイライン）に統一感がない。

商業

- ・特色ある専門店が少ない（衣・食）。
- ・多様な店が集まった「商店街」がないので、デパートや駅ビルに利用者が集中してしまう。
- ・人が集う娯楽施設が少ない。
- ・家族連れで訪れる施設・店舗が少ない。
- ・アーケードがなく、天気が悪い日に出歩くことができない。
- ・空き店舗が集中しているところは、歩いていて寂しい。
- ・お店の閉まる時間が早い。午後からの開店でもいいので、せめて午後9時頃まで営業してほしい。
- ・まずは、まちなかで商売される方が、そこに住んで、そこで買物することが重要。
- ・駐車場を併設した店舗が少ない。
- ・店舗数の減少や大型店の撤退等により活力が低下しつつある。
- ・店舗やその店舗が取り扱う商品に関する情報が少ない。

- ・京成以外は人が少ない（特に若い世代）。
- ・駅ビル以外にショッピングセンターがあまりない。
- ・近くにスーパーがない。
- ・店舗が遠く、散らばっている。
- ・どこにどんな店があるか情報がない。
- ・シャッターが閉まっていて、景観がよくない。
- ・学生が多いのに古本屋がない。

賑わいづくり事業

- ・誰もが使いやすいコミュニティスペース（広場やホール）が不足している。
- ・若者を中心に集まる場所が少ない。
- ・休日には、色々なイベントがあると良い。

交通

- ・歩行者用道路がせまい。
- ・道がでこぼこしていて走りにくい。
- ・駐輪場が少ない。
- ・自転車道がない。
- ・自転車が走りづらい。
- ・バスの時刻表がとても分かりにくい。
- ・公共交通の利用促進・維持のための公的支援がない。
- ・100円で乗れる小型バスの運行がない。
- ・車が使いにくい。道路や駐車場の問題がある。混雑や安全性の問題。
- ・水戸駅北口と南口の車での移動路が分かりづらい。
- ・まちなかを車で移動しようとするのが間違い。結果駐車場だらけになってしまったし、目的地以外を見ようと思わない。
- ・車の駐車場はあるが無料ではない。
- ・運転のマナーが悪い（狭い道なのに速度を落とさない）。

都市福祉施設

- ・芸術館以外で文化活動を継続的に行う施設・団体等が欲しい。
- ・様々な資源があるが、それをつなぐ仕組みがない。

その他

- ・まちなかに行く用事がない。
- ・“まちなか”と呼ばれるエリアが広すぎる。それも一本道、疲れるだけで散策の楽しみがない。
- ・まちなかのメリットよりデメリットの方が多い気がする。
- ・コンベンションの活性化。

- ・地価やオフィスレントが相対的に高い。
- ・都市的な人間関係欲求と希薄なコミュニティ。
- ・まちなかの魅力を効果的に発信する仕組みが弱い。
- ・若者がいないわけではない。常磐大学、茨城大学、文化デザイナー学院で学ぶ若者はいる。彼らの足をまちなかに向けさせる仕組みがない。半面で今後増加する高齢者がまちなかを楽しめるような仕組みが大事。

■水戸のまちなかの●●は困る

居住環境

- ・水と緑が少ない。
- ・総合病院が郊外へ移転したことで、街中に病院が少なくなった。
- ・シャッター街や空き地が多く、夜道が暗くなり、危険な場所が増えた。
- ・建物の老朽化により、地震などの災害に対して、不安な場所が増えた。
- ・東日本大震災の状況を考えると、災害時の備えに不安がある。
- ・フードデザートの問題がある（身近に食料品を買う場所が少ない）。
- ・たくさん買物すると持ち歩くのが大変。
- ・居住者が高齢化し、若い家族が少ない。子供が少ない。
- ・まちなかの安全対策（防犯パトロール）がない。
- ・子どもたちが放課後遊べる場所が無い（児童館・児童公園）
- ・歩道での喫煙。
- ・高齢者等の休憩場所が少ない。

商業

- ・魅力的な個店、商業施設が不足している。
- ・空き店舗、特に空きビルの存在がイメージ悪化、治安悪化を招いている。
- ・店舗の閉店時間が早い。
- ・店舗の経営者が高齢化し、後継ぎがない。
- ・店舗やインフラも老朽化し、設備投資が少ない。全体的に新陳代謝が進まずに活気がなくなっている。
- ・飲食店などでの土日休業。
- ・リヴィン、旧水戸京成、ユニー等大型店の撤退後が決まっていない。
- ・商店街同士がまとまっていない。
- ・お店がまとまっていないので、歩きでは回りにくい。
- ・書店、映画館、スポーツ店、ギャラリーなど文化関連産業が減少傾向。

賑わいづくり事業

- ・梅まつり時期の賑わい・混雑の発生。
- ・まちなかを散策する際に、気軽にちょっと休める空間（ex. 喫茶店）がない。多様なニーズに応えられる店舗がない。例えば衣料品ならば京成デパートとしまむらの中間に位置する店舗。

交通

- ・街中を楽しむ歩道の整備が悪い。
- ・道がせまい。歩道がない路地が多く、車両や自転車・歩行者が移動するときに気をつかう。
- ・段差等で歩道が歩きにくい（バリアフリー化）。自転車と歩行の分離ができていない。

- ・土地の形状の問題で坂道が多く、歩いたり自転車に乗って移動すると疲れる。
- ・高低差があり、自転車を使いにくい。
- ・駐輪場や自転車道路の整備が十分でない。
- ・バス路線が非常にわかりにくい。
- ・バス料金が低い。
- ・バスの使い勝手が悪い（バス会社間で時間・方面別等整理）。
- ・駐車料金がかかる（無料で駐車できる場所が少ない）。市外から来た人が止めやすい駐車場がない。狭くて利用しにくい。
- ・駐車場が少ないため、ちょっと止めるにも、駐車料金がかかる。・駐車料金が低い。
- ・一方通行が多く、水戸の道路を知らない人は車を運転しにくい。

都市福利施設

- ・行政機関がまちなかにない。
- ・施設がバラバラの場所にあるので、アクセスしにくい。

その他

- ・歴史性が感じにくい。
- ・大都市ではないので、本当の意味での都市の匿名性は得にくい（必ず誰かに会ってしまうことのよし悪しがある）。
- ・安定的ではない多様なコミュニティ（無関心層の住人の存在、法人の存在など）。
- ・中心市街地だけではなく、原発30km圏内であり、いざというときの不安は残る。
- ・わりと豊かな人が多く現状でも困らない。
- ・不在地主も多く現状を知らない。
- ・バブル崩壊の後遺症から何も動けない人が多い。
- ・まちの総延長が長いため移動が困難。
- ・案内が少ない。
- ・歩きたくなる仕掛けが少ない。
- ・まちなかでの歴史の匂いが弱い。
- ・中心「だった」が、それを伝統として維持継続するための革新や努力がない。
- ・まちなかの活性化の鍵は、中心性の復活である、ということに気が付いていない。
- ・多くの人にとって大切なまちなかは「公共性が高い」と言うことが強調されていない。
- ・中心性の復活のための総合的な施策が欠如している。
(公共交通の充実、まちなか立地の促進、まちなか居住の促進、街並み環境整備、など)
- ・「文化と歴史の薫り高い水戸」のまちなかと言える雰囲気ではない。
- ・中心市街地のエリアが広い。
- ・ビジネスビルと遊ぶところがまじっているので、観光客は困る。
- ・学生にとってもお店が集中していないまちなかは遊びづらい。

「水戸のまちなかにおけるメリット等～評価軸による意見集約」

歩行対応 自転車、公共交通優先
まちなかの+
<ul style="list-style-type: none"> ○徒歩や自転車、公共交通を優先したライフスタイル ○防災・安全なまち ○水戸駅から中心市街地にかけて、千波湖、偕楽園公園、デパートがコンパクトにまとまっている。 ○都市機能がコンパクトなエリアに集積 ○これまでの投資蓄積の有効活用 ○表通りと裏通り・横町の回遊性高める
まちなかの-
<ul style="list-style-type: none"> ・段差等で歩道が歩きにくい。 ・自転車と歩行の分離ができていない。 ・道がせまい。歩道がない路地が多く、車両や自転車・歩行者が移動するときに気をつかう。 ・バス路線が非常にわかりにくい。 ・バスの使い勝手が悪い
精神的豊かさ・水戸の個性 幸福度
まちなかの+
<ul style="list-style-type: none"> ○水・エネルギー・食料の備え ○台地の上は地盤が強固 ○千波湖、偕楽園など、大規模な公園・緑地が多く自然が豊か。 ○医療・福祉の充実で、安心して住める ○市街地の街並みの雰囲気を感じながら歩いて買物や食事ができる。 ○商店等のまちなか立地の信用形成、責任も。 ○まちなかを盛り上げたい、より魅力的な空間に変えていきたいと考える「人」の存在。 ○水戸美術館の存在と芸術文化の体験、それが醸し出す街の雰囲気。 ○歴史教育に豊富な教材 ○都心居住者も来訪者も、歴史・芸術・文化散策、裏街巡りを楽しむ ○個性的で魅力的な店舗がある。 ○買回り品を取り扱う店舗や専門性が高い店舗が多い。 ○農村・漁村との連携による広域都市圏での地産地消 ○周辺地域にとって、文化に触れ、遊びを楽しむ場としての水戸都心は必要。
まちなかの-
<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかの安全対策（防犯パトロール）がない。 ・高齢者等の休憩場所が少ない。 ・飲食店などでの土日休業 ・書店、映画館、スポーツ店、ギャラリーなど文化関連産業が減少傾向 ・まちなかでの歴史の匂いが弱い。 ・地価やオフィスレントが相対的に高い ・希薄なコミュニティ

「水戸のまちなかにおけるメリット等～+の強化、マイナスの解消」

+の強化、-の解消 キーワード『つながる』

1. 徒歩や自転車、公共交通を優先したライフスタイルの実践

- *歩道を歩きやすくする。バリアフリー化。
- *自転車と歩道を分離する。
- *バスの使い勝手をよくするために、バス会社間と時間・方面別等を検討、整理する。
- *LRTの導入など、新しい公共交通機関の整備を検討する。
- *街なかへ入る車の制限とパークアンドライドの検討
- *医療・福祉をさらに充実させ、安心して住めるようにすることが大前提となる。

2. コンパクトシティを歩いて楽しむ

- *都市機能がコンパクトなエリアに集積していること、水戸駅から中心市街地にかけて、千波湖、偕楽園公園、デパートがコンパクトにまとまっているコトを活かす。
- *これまでの投資蓄積を有効活用する。
- *表通りと裏通り・横町の回遊性を高める
- *市街地の街並みの雰囲気を感じながら、歩いて買物や食事ができる利点をいかすためにも、街の魅力、店の魅力、飲食店などでの土日の営業を検討する。

3. 都心居住者も来訪者も、歴史・芸術・文化散策、裏街巡りを楽しむ

- *水戸芸術館の存在と芸術文化の体験、それが醸し出す街の雰囲気づくりに注力する。
- *街なかでの歴史の匂いが弱い。街なかの歴史・文化色をもっともっとアピールする。街なかに歴史教室を常設するなども検討する。
- *まちなかに、歴史教育に豊富な教材があることを認識する。
- *書店、映画館、スポーツ店、ギャラリーなど文化関連産業の出店、経営を支援する。
- *高齢者等の休憩場をもっと用意する。

4. 防災・安全なまちづくり

- *台地の上は地盤が強固であるという事をいかし、水・エネルギー・食料の備えをしっかりとやる。
- *人間関係密なコミュニティづくりのしかけをする。
- *まちなかの安全対策（防犯パトロール）を進める。

5. 周辺地域・農村・漁村との連携

- *農村・漁村との連携による広域都市圏での地産地消を推進する。
- *周辺地域・農村・漁村との相互交流を推進する。
- *周辺地域・農村・漁村との災害協定を検討する。

水戸まちなか再生の強化事業

水戸まちなかの現状	まちなか再生の強化事業	部会運営
①歴史、芸術、文化を楽しみたい。	歴史散策、芸術・文化鑑賞 ソフト*弘道館の教えを学ぶなど「水戸っぽ」づくり * 一校芸術鑑賞の日 * 歴史コース設定と歴史巡り	人材育成部会 人材育成部会 街なか居住・市街地整備部会
	ハード*歴史の高札づくりなど歴史都市の雰囲気づくり	街なか居住・市街地整備部会
②脱自動車の都心居住を楽しみたい。	脱自動車のライフスタイル実践 ソフト*バス運行の見直し *自転車の安全運転指導 *LRT 導入など、新しい公共交通機関の整備の検討	交通・福利向上部会 交通・福利向上部会 交通・福利向上部会
	ハード*歩道のバリアフリー化+お助け隊 *街なかへ入る車の制限とパークアンドライドの検討実施	交通・福利向上部会 交通・福利向上部会
③コンパクトシティを楽しみたい。	コンパクトシティを歩いて楽しむ環境づくり	
	ソフト*街の魅力、店の魅力 up と飲食店などの土日営業推進	商業・賑わいづくり部会
	ハード*表通りと裏通り・横町の回遊路整備	交通・福利向上部会
④安心安全なまちで暮らしたい。	防災・安全なまちづくり ソフト*水・エネルギー・食料の備え *地域の絆を高め人間関係密なコミュニティづくり *まちなかの安全対策（防犯パトロール） * エコな生活意識の変革	街なか居住・市街地整備部会 街なか居住・市街地整備部会 街なか居住・市街地整備部会 人材育成部会
	ハード*自家発電の備え	水戸市
⑤広域都市圏との連携を強めたい。	周辺地域（農村・漁村）との連携 ソフト*周辺地域との相互交流の推進 *広域都市圏での地産地消を推進 *周辺地域との災害協定を検討	商業・賑わいづくり 商業・賑わいづくり 街なか居住・市街地整備部会
	ハード*周辺地域とのたまり場(ヒト、モノ、コト)開設	商業・賑わいづくり

水戸市中心市街地活性化協議会 今後の運営について

1. 状況変化

- ・大震災を踏まえた教訓
- ・高橋新市長の登場
- ・仮庁舎のスタート
- ・若者を中心としたイベントの活発化

→もはや、従前の考え方では通用しない、時代は大きく動いた

2. 状況把握

- ・水戸市の事業
- ・水戸商工会議所の事業
- ・中心市街地活性化協議会の事業
- ・商店街の事業
- ・様々な団体（個人、民間、NPO、大学、等）による様々な事業

→まちなかで、今、何が起きているか、これから何が起こるか、を協議会として把握を

3. 新しい戦略の必要性

- ・水戸商工会議所の「新庁舎についての私たちの考え方」の活用
- ・連携強化（イベントの連携、各団体・メンバーの連携、等）
- ・ノウハウの蓄積と継続性の担保
- ・アウトプット指標ではなく、アウトカム指標で

→総合的な視点、全体を繋ぐ視点、効果を最大にする視点をもった戦略を

4. 体制の立て直し

- ・会議体の立て直し（幹事会、運営会議、部会、協議会）
- ・外部との体制づくり

→内外から「役に立つ組織」として存在し続けること

5. 政策論を展開する場づくりも

- ・中心市街地には「ステータスとしての中心性」は残っている。これを、「実質的な中心性」へと戻す戦略、中心性を復活させる戦略を。
 - ①中心市街地に出店したいが税金が高い → 産業集積特区での対応で産業集積促進
 - ②中心市街地は便利で住みたいが地価が高い → 補助金などの優遇策で人口集積促進
 - ③中心市街地の高齢化に対応できていない → 公共交通と医療福祉の充実
 - ④中心市街地を楽しく元気な場所にしたい → イベント企画・イベント支援

→事業団体+シンクタンク機能の充実を

水戸市中心市街地活性化協議会 今後の運営について（２）

1. 抜本的、かつ戦略的な活性化策を

- ①震災後、イベントが増えたが、活性化には繋がっていない。
- ②なんとなく、方向性は見えてきた。
文化と歴史、そしてコンパクトシティ⇒「コンパクトで質の高い水戸らしい街を目指して」
- ③水戸市と協議会と地元がコンセプトを共有し、戦略的な対応を。

2. 具体的な戦略として

①コンセプトづくり

- ・協議会が中心となって「コンパクトで質の高い水戸らしい街」のコンセプトを整理。
- ・そのコンセプトを、水戸市、協議会、地元で共有する。

②具体的な戦略として

- ・コンパクトで質の高い水戸らしい街のために

便利で住みやすい街なか居住の促進 都心居住の促進、コミュニティ活動の拠点づくり、水戸らしい教育の推進 水戸らしい市街地整備の推進 防災・安全まちづくり、歴史と文化の薫り高い街なかづくり
ハブ性の高い交通環境の整備 広域連携の交通拠点づくり、水戸駅を中心とした交通体系の再構築 人にやさしい居住環境、交通環境づくり L R T の推進、駐車場とバスの共有チケット、段差のない歩道空間づくり
若者を中心とした多様な主体による多彩なイベントで賑わいづくり 事業の全体の把握、相互連携の促進、プラス 松本さんメモ コンセプトを反映した街なかづくりをサポートするお店づくり 地産地消の促進、エコプロダクツ、エコサービスの推進、宅配サービス
街なかコンシェルジュ（御用聞き、コーディネート、サポート、調整） 行政と協議会と地元やイベント企画者の連携促進とPR、事業効果の最大化

- ・戦略を煮詰めるために協議会として、まず最初に

街なかメリットの再整理（〇〇がある、××がない、●●は困る）。 ↓ 種類分けして、部会で議論を。上記、戦略（新市庁舎メモを含む）についても議論を。 ↓ 水戸らしい街なかの望ましい姿について、運営委員会で協議、全体像づくりを。 ↓ 基本計画の骨格となるものとする（まずは提案書としてまとめる。そして具体化へ）。 水戸のまちなかに来れば、住めば、ライフスタイルが変わる。
--

3. 役割分担

- ・協議会：コンセプトづくり、方向性づくり、体制づくり、ハード事業の提案、部会運営
- ・地元商店街：イベント支援、商業活性化
- ・行政：協議会の提案を踏まえた計画づくり、制度づくり、規制緩和、規制強化、ハード事業

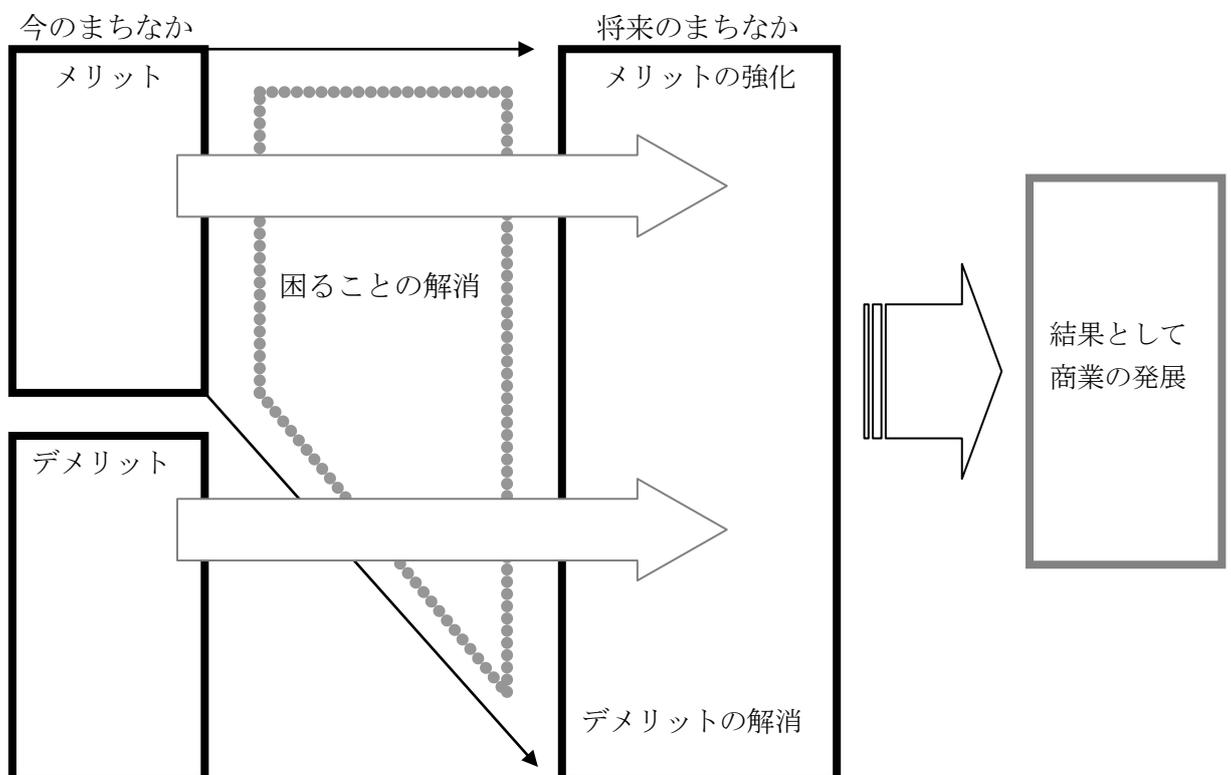
水戸市中心市街地活性化協議会
「水戸のまちなかにおけるメリット等の再整理」を踏まえて

1. 「メリット等の再整理」から今後のコンセプトを見定める方法として

- ①「メリット」と「困ること」を整理し、多くの人の期待する「まちなか」をイメージする。
- ②このプロセスの中で、「商業」は結果としての繁栄を狙うものとする。

2. 「メリット等の再整理」から今後の戦略を見定める方法として

- ①最初に、さらに強化すべき事項として「メリット」に焦点を当てる。
- ②次いで、「メリット」を強化するための方法論として「困ること」の解消に注目する。
- ③そして、最終的に「デメリット」の解消に繋げる。
- ④なお、上記プロセスの過程で、あくまでも、「商業」については、正面からは扱わない。



水戸市中心市街地活性化協議会

「水戸のまちなかにおけるメリット等の再整理」を踏まえたコンセプトの整理のために

1. 方向性の確認

20世紀的価値観から21世紀的価値観への転換を、この「まちなか」から始めよう。
水戸のまちなかを、文化重層都市としてリデザインしよう。
その歴史性、文化、集積している機能、格、拠点性、中心性をさらに強化しよう。
つながりを大切にしよう。
人が集い、人が賑わう、活性化の要にしよう。

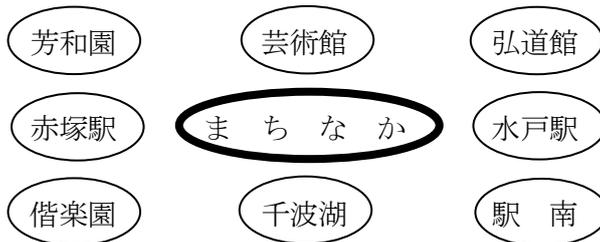
→ 歴史と文化の奏でる我らが「まちなか」・・・？

→ 私たちのまちなか・私たちのふるさと・・・？

2. ターゲットの確認

まちなかにとってのまちなか・・・賑わい、活力、便利
水戸市民にとってのまちなか・・・私たちの中心、公共性、ステータス
広域都市圏にとってのまちなか・・・さすが、やっぱり
来訪者、観光客にとってのまちなか・・・楽しい、これが水戸だ、なるほど

3. 周辺環境との相互関係



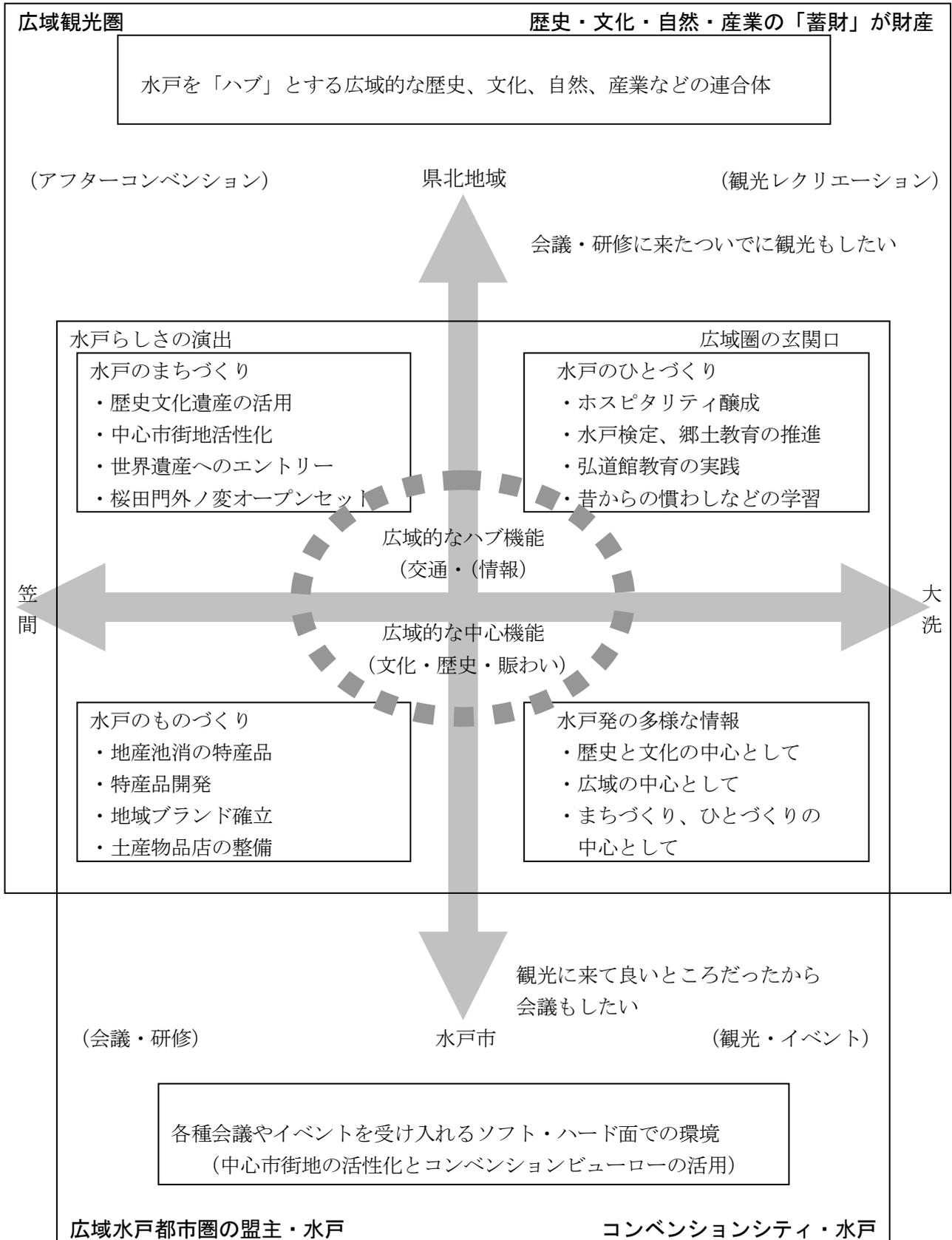
4. 資源（環境、機能など）と、その工夫（仕掛け、活用など）と、結果（活性化・幸福感など）

結果	○活性化＝賑わい・集う・元気・快適・固定資産税の増収・定住人口の増加 ↑ ～ 私たちが集い、賑わい、楽しむ、私たちの「まちなか」
工夫	○仕掛け（つなげる）＝歩いて楽しい・複合用途・人が輝く・リデザイン（あるものを活用） ↑ ～ リデザイン・資源を使って「文化重層都市」ふたたび～
資源	○環境＝文化重層都市（歴史や文化など各種資源の中心）・公共の場・活発なイベント ～ 歴史と文化と都市機能の集積する「まちなか」～

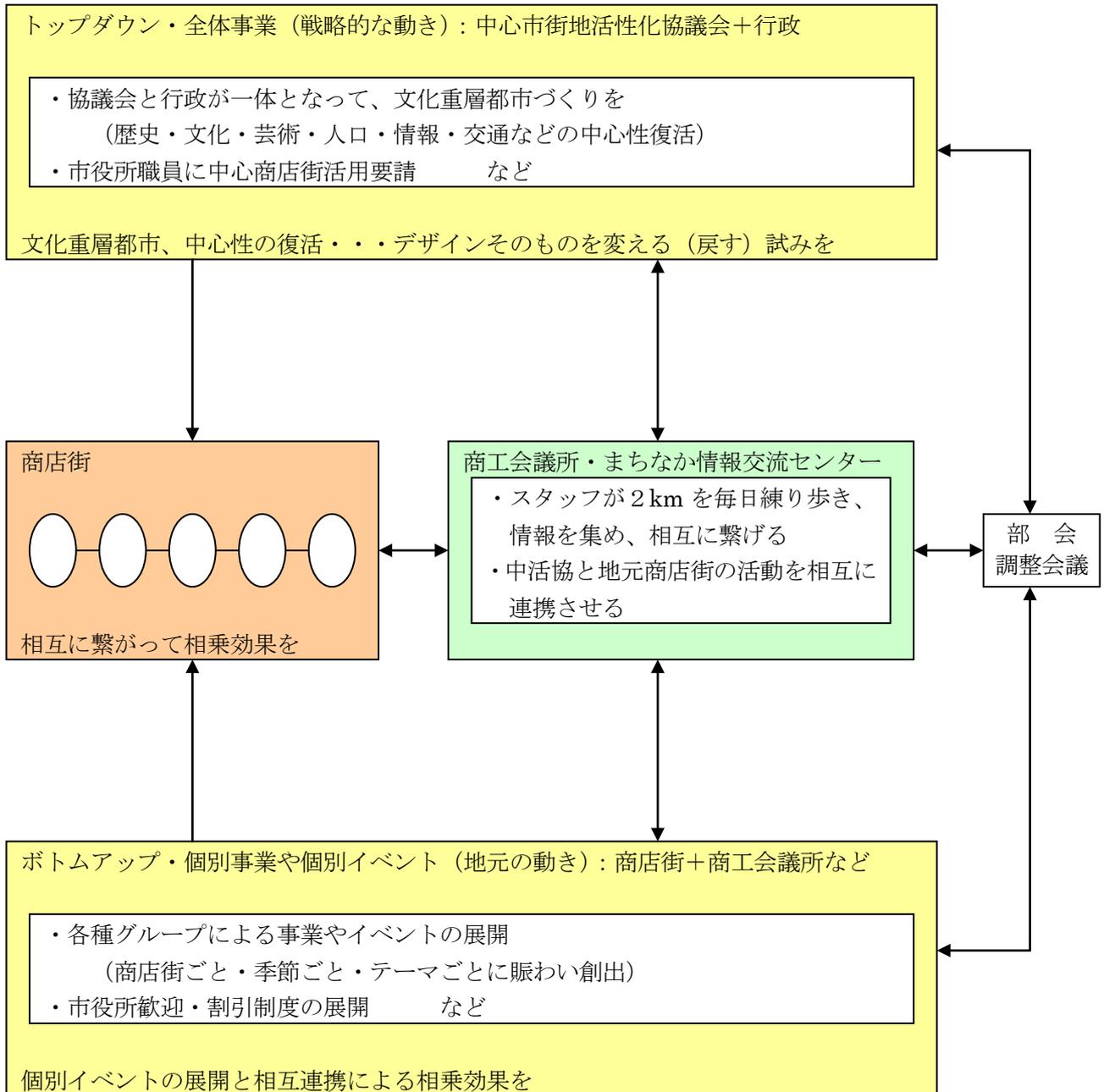
5. 戦略として

コンパクトシティ
LRT
新しい公共
歴史まちづくり法
まちづくり3法
各種優遇策の導入・・・まちなか居住の促進策など

水戸市中心市街地活性化協議会
 水戸をハブとする広域連携の考え方メモ
 広域水戸都市圏（県央県北地域）の盟主としての水戸



水戸市中心市街地活性化協議会
 試される3年間の基本スタンス
 仮庁舎効果を最大限に活用する（拡大する）3年間



水戸市中心市街地活性化協議会
水戸市中心市街地活性化の基本方針メモ

1. 現状と課題

- ・「水戸のまちなかにおけるメリット等の再整理」を踏まえ、メリットを伸ばし、マイナスを解消することが大切（20121203 松本メモ「評価軸による意見集約」を参照）。

2. コンセプト

- ・全市的観点からの方向性と、現場の実情に沿った方向性を。
- ・最も大切なことは、「中心性の復活」
中心性の復活＝文化重奏都市ふたたび＝まちなかを取り戻そう ⇒ 時代をリード
- ・多くの人たちがまちなかに望んでいることは、「21世紀的な価値観」
21世紀的な価値観＝新しいライフスタイルの提案（＝懐古的未來） ⇒ 時代をリード

3. 戦略

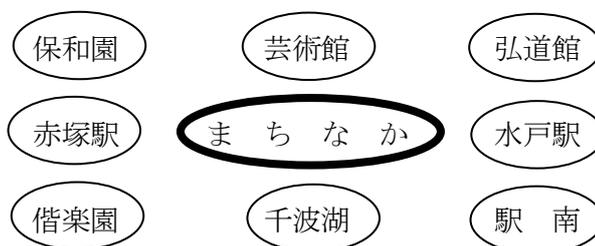
- ・基本戦略（テーマは「つなぐ」・文化の重奏に向けて・人や地域、文化、時代を繋ぐ）
提案書「新市庁舎についての私たちの考え方」に掲げた7つの戦略を参照。
20130116 松本メモ「水戸まちなか再生の強化事業」を参照。
- ・部会運営
①街なか居住・市街地整備部会 ②交通・福利向上部会 ③商業・賑わいづくり部会
上記、既存3部会に加えて、④人材育成部会 を設ける。
部会ごとに、戦略を踏まえ、コンセプトに沿った事業展開を推進する。

4. 事業検討の際のポイント

①ターゲットの確認

まちなかにとってのまちなか・・・・・・賑わい、活力、便利
水戸市民にとってのまちなか・・・・・・私たちの中心、公共性、ステータス
広域都市圏にとってのまちなか・・・・・・さすが、やっぱり
来訪者、観光客にとってのまちなか・・・・・・楽しい、これが水戸だ、なるほど

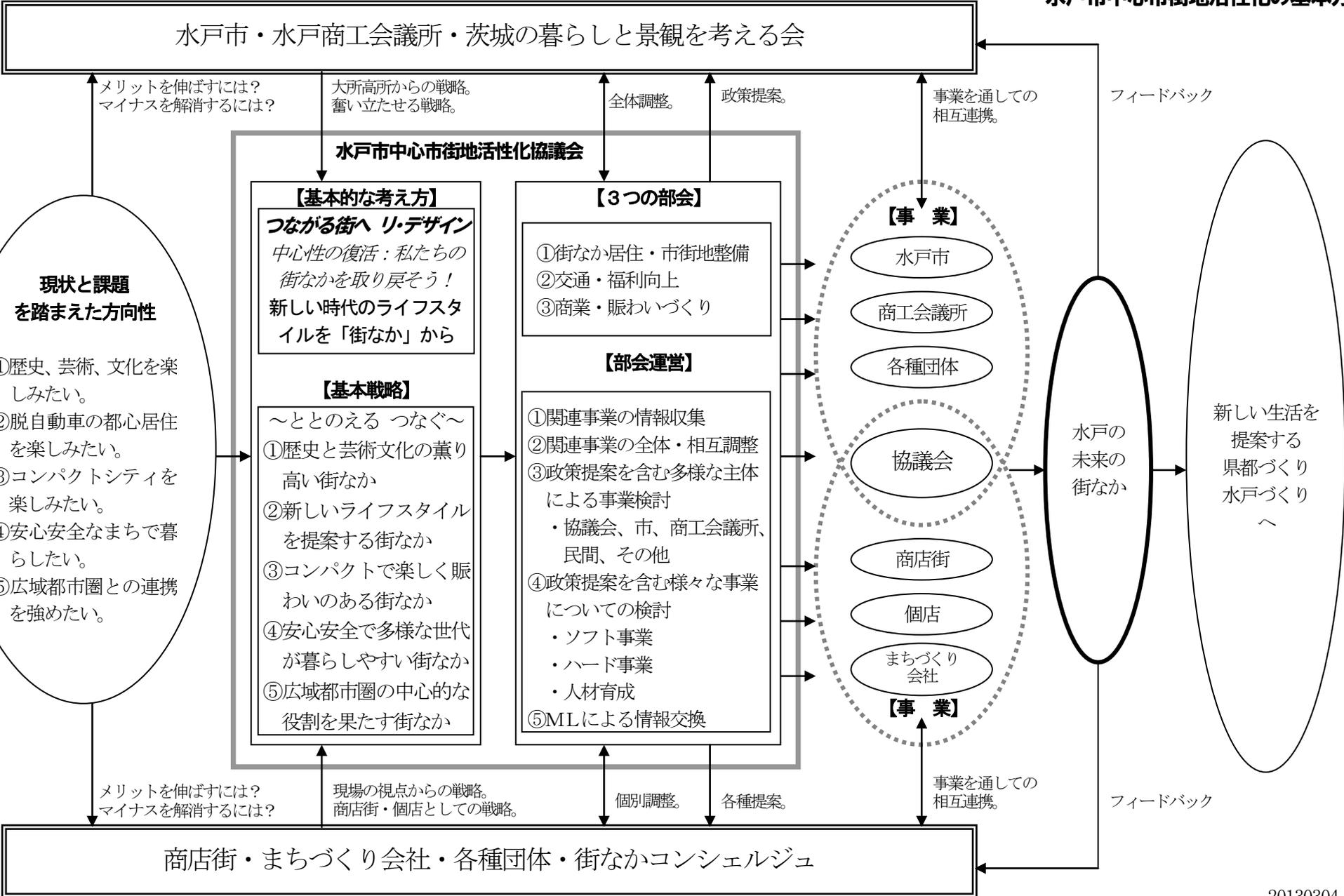
②周辺環境との相互関係



③資源と、その工夫と、結果

結果	○活性化＝賑わい・集う・元気・快適・固定資産税の増収・定住人口の増加 ↑ ～ 私たちが集い、賑わい、楽しむ、私たちの「まちなか」
工夫	○仕掛け（つなげる）＝歩いて楽しい・複合用途・人が輝く・リデザイン（あるものを活用） ↑ ～ リデザイン・資源を使って「文化重層都市」ふたたび～
資源	○環境＝文化重奏都市（歴史や文化など各種資源の中心）・公共の場・活発なイベント ～ 歴史と文化と都市機能の集積する「まちなか」～

水戸市中心市街地活性化の基本方針



1. 中心市街地活性化協議会総会

法定化されている中心市街地活性化協議会の役割①市町村が作成する基本計画、認定基本計画の実施について、市町村に意見を述べるができる。②市町村が基本計画を作成する際の意見聴取③民間事業者が事業計画を作成する際の協議についての最終の意思決定。その他中心市街地の活性化の総合的かつ一体的な推進に関し必要な事項についての協議と最終の意思決定。

2. 運営委員会

協議会総会へ上程する提案事項の調整および専門部会へ委託する事項の調整、協議会の運営・活動等について協議、各専門部会から提案されるプロジェクトの取りまとめおよび全体調整、委員会内に設置した調整会議による部会間の連携・調整およびまちづくりに関する団体・事業等情報の収集、人材育成等。

3. 事業

- 水戸市新中心市街地活性化基本計画に基づく中心市街地活性化事業の推進および中心市街地活性化の為の新事業の企画・実施。
- 大震災を踏まえた街づくり・中心市街地活性化事業の検討・実施
- 中心市街地における「茨城産業再生特区計画」を活用した活性化事業の検討・実施
- 基本計画の認定・申請に向けた実施可能な事業プランの提案
- 中心市街地活性化に係る各種事業および団体との連携・調整
- 先進事例の視察・セミナー開催等によるまちづくりの意識の醸成

4. 専門部会の取り組み

運営委員会からの委託を受け、具体的な事業プランの推進に関して協議し運営委員会へ協議結果の報告を行う。進捗状況等に合わせ随時開催。

◆街なか居住・市街地整備部会

街なか居住の促進と居住環境の向上、市街地整備に関する具体的計画の調整など

①居住人口の向上に資すること

中心市街地内において、クルマを使わないライフスタイルの啓発。特に自転車の使いやすい交通体系の在り方に関する具体的研究を行う。※「街なか居住推進に係る基礎調査」の追跡調査

②再開発事業に関すること

中心市街地内における再開発事業やマンション建設に関する最新情報の継続的な収集。またマンション事業者との連携による情報の相互交流。※大工町再開発事業等

③中心市街地の防災体制に関すること

震災時において中心市街地内で発生した様々な事象についての情報を収集するとともに、問題点や課題を抽出する。また現在見直しが進められている防災計画の資料を水戸市から取り寄せ、災害時において対策本部と各市民センターの連携が肝要であることや、市民教育の在り方についての重要性を盛り込んでもらえるように要望していくことで、まちなか居住の魅力向上を図る。

【継続事業】

- ①泉町新鮮市配送サービス事業
- ②中心市街地の再開発事業や整備事業に関する最新情報の収集
- ③マンション事業者等との連携による「街なか居住推進」に関するセミナー等の企画・実施

【新市庁舎提案メモより】

- ①便利で住みやすい街なか居住の促進
都心居住の促進、コミュニティ活動の拠点づくり、水戸らしい教育の推進
- ②水戸らしい市街地整備の推進
防災・安全まちづくり、歴史と文化の薫り高い街なかづくり

【松本さんメモより】

- ①歴史散策、芸術・文化鑑賞
 - ソフト *弘道館の教を学ぶなど「水戸っぽ」づくり
 - *一校芸術鑑賞の日
 - *歴史コース設定と歴史巡り
 - ハード *歴史の高札づくりなど歴史都市の雰囲気づくり
- ②防災・安全なまちづくり
 - ソフト *水・エネルギー・食料の備え
 - *絆を高め人間関係密なコミュニティづくり
 - *まちなかの安全対策（防犯パトロール）
 - *エコな生活意識の変革
 - *周辺地域との災害協定を検討
 - *自家発電の備え

◆商業・賑わいづくり部会

TMO構想の基本理念である「文化重層都市」を踏襲した商業基盤の整備、賑わいづくり事業の具体的計画の促進調整など。

「おかえりなさい水戸市役所」地域連携型賑わい創出事業（茨城県商店街再生総合支援事業）

①ハード事業

商店街全体を「おかえりなさい水戸市役所」のフラッグやポスターなどで装飾し、歓迎ムードを演出する。

②ソフト事業（販促）

市職員を対象としたサービス券の配布。来庁者対象の割引サービスなどを実施する。販促やサービスを実施する店舗を掲載した商店街マップを作成し、来庁者に配布する。

③ソフト事業（イベント）

商店街の広場や空き店舗を活用することによって、中心市街地の複数会場で演劇や音楽イベントを実施する。※駅から大工町の商店街、大型店等連携による活性化事業の実施（時期；秋頃）

【新市庁舎提案メモより】

- ①若者を中心とした多様な主体による多彩なイベントで賑わいづくり
事業の全体の把握、相互連携の促進
- ②コンセプトを反映した街なかづくりをサポートするお店づくり
地産地消の促進、エコプロダクツ、エコサービスの推進、宅配サービス

【松本さんメモより】

- ①コンパクトシティを歩いて楽しむ環境づくり
 - ソフト *街の魅力、店の魅力upと飲食店などの土日営業推進
- ②周辺地域（農村・漁村）との連携
 - ソフト *周辺地域との相互交流の推進
 - *広域都市圏での地産地消を推進
 - ハード *周辺域とのたまり場（ヒト、モノ、コト）開設

◆交通・福利向上部会

公共交通機関の利便性の向上、都市福利施設の整備に関する事業の具体的計画の調整など。

①駐車場不足及び高齢者の移動支援に関すること

水戸市内循環バスの有効活用に関する研究並びに運賃体系の検討。
※市内循環バスの利用促進

②低床バスの導入に関すること

③タウン・モビリティに関すること

【継続事業】

①公共交通機関利用による移動レポート作成事業

公共交通機関の利用促進並びにオンデマンドタクシーによる、主に高齢者を中心とした移動支援に関する勉強会の開催。

②まちなかバリアフリーマップ作成事業

中心市街地における高齢者や身障者、乳幼児連れの方への利便性向上のため、バリアフリートイレ、車イス用駐車場、おむつ換えスペース等の情報を収集・整理し、マップとして作成し関係機関に配布する。また、web等での情報公開も視野に入れる。

※福祉団体等へマップを配布し、まちなかのバリアフリーに関する意見を取りまとめる。

※養護学校等の生徒による「街あるき」実験

③中心市街地への民設コミュニティセンター（仮称）づくりの支援

【新市庁舎提案メモより】

①ハブ性の高い交通環境の整備

広域連携の交通拠点づくり、水戸駅を中心とした交通体系の再構築

②人にやさしい居住環境、交通環境づくり

LRTの推進、駐車場とバスの共有チケット、段差のない歩道空間づくり

【松本さんメモより】

①脱自動車のライフスタイル実践

ソフト *バス運行の見直し

*自転車の安全運転指導

*LRT導入など、新しい公共交通機関の整備の検討

ハード *歩道のバリアフリー化+お助け隊

*街なかへ入る車の制限とパークアンドライドの検討実施

②コンパクトシティを歩いて楽しむ環境づくり

ハード *表通りと裏通り・横町の回遊路整備

◆部会共通事項

水戸市役所三の丸臨時庁舎開設に伴う数値的効果の検証について。

①歩行者通行量調査（毎年7月実施）

例年実施している調査ポイントの見直しを行い、臨時庁舎開設による効果測定を行う。

②空き店舗率（毎年3月実施）

③居住人口（水戸市より）

これらの数値は、水戸市新中心市街地活性化基本計画において定期的に調査を行うこととしているため、協議会においても経年的にフォローしていく。

【新市庁舎提案メモより】

①街なかコンシェルジュ（御用聞き、コーディネート、サポート、調整）

行政と協議会と地元やイベント企画者の連携促進とPR、事業効果の最大化

◆運営・方向性および課題

①部会のあり方および活動について

協議会の目的および事業の検討・展開などに見合った組織体制、専門部会等のあり方・活動について検討。

②街なかでイベントを行っている団体との横のつながり（情報の共有・事業の連携等）をどのように図るか、

また、イベントや団体などの情報収集（集約）のためのシステム（組織等）等について検討。